

平成 24 年度 長野市産業振興審議会 第 2 回 観光振興専門分科会

日 時 平成 25 年 2 月 15 日（金） 午前 10 時 00 分～11 時 40 分
場 所 長野市ふれあい福祉センター 5 階 ホール
出席者 委員（14 名中 12 名出席、2 名欠席）
事務局 6 名

【 質疑応答部分 議事録 】

（1）長野市産業振興ビジョン後期振興計画重点プラン平成 24 年度事業進捗状況及び平成 25 年度事業計画について

[委員]

観光はいわゆる“人を立てていく”戦略が重要になってくると思うが、それについてどのように考えるのか。例えば、この人がやっているお店に行ってみたい、話をしてみたいと観光客に感じてもらうようにアピールをすることが大切で、さらに有名人を観光大使に任命して宣伝をしてもらうことなどが考えられるが、その点についても伺いたい。

[市]

善光寺表参道ガイドの面から言いますとガイドの研修に併せて“おもてなしの心”についても学ぶような取組を行っております。また、冬の観光パンフレットでも店の人が料理を紹介する形を取っておりまして、行政ではなく一般の人々が中心となって進めていくことを観光庁や県でも考えており、本市でも取り込んでまいりたいと考えております。

[委員]

春から秋にかけてのキャンペーンの成果はどうなっているか。

[市]

数字で言いますと H24. 1 月～12 月の観光入込客数を対前年同期で比較した場合、夏場は前年並みを維持したものの全体で 98.4%と 1.6%の減となっております。色々な要素が考えられますが、その中でも国や J R などが東北重視の姿勢を打ち出していたことが大きかったと思われます。なお、夏場については、宿泊施設の努力により、料金の引き下げが行なわれ客室の稼働率が上がったことによるものと考えられます。

次に、今までと同様な方法では誘客は図れないため、新たな方策として首都圏地下鉄でのフリーペーパーへの広告掲載、B S 放送による旅番組の全国放送を実施いたしました。さらに、人とのつながりという点からは前述のように個店名・個人名を出していくことも方法のひとつであると考えております。また、ご理解が得られればの話でございますが、善光寺のご住職さんに善光寺を案内してもらうなどこういったことについても検討してまいりたい。その他にも体験という点からは、例えば“ソバ”を例にとりますと 陶芸・竹細工・そば打ち の各体験が長野市だけで完結することが可能です。このような体験を通して地域との連携から得られる、ふれあいを感じる事が出来ると考えておりまして、本市は他市・他県に比べて、そのような要素を持った街であるとも考えられます。

[委員]

観光入込客数目標 1.200 万人は目標達成のための指数であるが、目標達成のためには首都圏のみならずインバウンドも大事である。観光入込客数はどのように把握しているのか。

[市]

観光入込客数は各観光協会や施設から数字を頂き、過去のデータなどと比較しております。しかしながら住民と観光客の区分けが明確にされているものではございません。正確さを求めるのであれば、入場料を頂き、聞き取り調査を行なわなければなりません。ご理解をお願いします。

次に、インバウンドでございますが、これは（財）ながの観光コンベンションビューローや県と一緒に進めております。最近では特に台湾に力を入れております。本市を訪れる理由付けといたしまして、“Free wifi”をNTTの協力によりまして、昨年9月末から導入いたしました。これは、インターネットが14日間無料で使用できるカードを長野駅の長野市観光情報センター及び松代観光案内所の2ヶ所で貸し出しているもので、導入約4ヶ月で600枚ほど貸し出したしました。この制度は現在、長野市と山梨県でしか実施しておりません。また、訪問する多くの外国人がスマートフォン、タブレット端末、パソコンを持参しておりますのでかなり有効な手段であると考えております。さらにスマートフォンで言いますと、今回の灯明まつりで“灯明光ラリー”のイベントを実施いたしました。これによりまして外国人だけではなく、日本人の若い人達にも人気が出たものでございます。

また、先程の事業進捗状況の中で説明いたしました富山市と集客プロモーション協定を締結した理由でございますが、富山空港が台湾からの集客を増やそうとしていること及び新幹線に人気があることなどによるもので、併せて関西方面からの誘客効果も考えられることから協定を締結したものでございます。

[委員]

観光入込客数の区分けが明確に出来るようにして、情報として把握出来るようにしてもらいたい。また、人とのつながりの面では少人数からの積み重ねで、そのイベントや事業がどの程度の人達に影響を与えているかを検討してもらいたい。

[委員]

イベントで“長野ならではのもの”を出せば、大勢の人に訪れてもらえる。1つ1つのイベントが誰に向けてのものか、誰のために情報発信を行なっているのか。そういった状況を把握することで誘客につなげることが出来ると思う。例えば、善光寺御開帳は別として、ながの祇園祭、善光寺周辺で行なわれる御柱祭は全国に向けて発信されていない。こういった歴史ある祭も観光面と絡めて全国に向けて情報発信してもらいたい。また、湯福神社の“茅の輪くぐり”のような全国のどこにもないような小さな祭も全国に向けて同様に情報発信することが長野らしさにつながるのではないかと。

[市]

今まで灯明まつりも、ながの祇園祭も開催決定が決まるまでに時間がかかってしまい、その影響もありまして情報発信が遅れてしまっていたのが実情でございます。今回、灯明まつりは秋頃から動き出しまして、情報を早目に発信した効果なのか昨年より観客数が多いと感じております。また、長野えびす講煙火大会がそうであったように継続して情報発信を行なうことで知名度を上げていくことが誘客につながっていくため、今後、灯明まつり、ながの祇園祭も継続して早目に情報発信を行なっていきたいと考えております。さらに、小さな祭についてでございますが、観光キャンペーンで作成しております“ながの瓦版”でありますとかJTBの“旅の絵ごよみカレンダー”に掲載することも検討してまいりたいと考えております。

ちなみに私見ですが、長野市民はこういったイベントに対しまして、あまり楽しんでいないような傾向が見られるため、市民がイベントを楽しむ考え方を根底から変えていかなければならないのかなとも感じております。地元が楽しまなければ、観光客も盛り上がりませんというのではということも考えられます。

[委員]

灯明まつりをもっと街全体で盛り上げる方法はないか。今は、勝手にやっている感じがある。

[委員]

善光寺を祈りの場所とし、そこから下を祭の場所として明確に区分けをし、祭を実施したらどうかという提案をＪＣに提案しようと考えている。

[市]

街全体というよりは、所々で飾りつけなどをやっている感じがありますし、確かに長野駅から善光寺まで繋がっている感じがあまりしません。全体の繋がりを出すためには、街の中でリーダーになるような人材が現れれば一体感が生まれ、街中で祭を盛り上げる雰囲気になっていくのではないかと思います。住民がやる気になっていく形が理想的です。

[委員]

善光寺では、これから出開帳が予定されており、御開帳についても請願を受けた。御開帳が開催されることで、長野の街の魅力をアピールして長野市に多くの観光客が訪れることを期待したい。

[委員]

今、御開帳の話が出たので、併せて開催される松代の回向柱についても情報発信をしてほしい。さらに長野駅の改修工事に絡み、観光客が迷うことのないように二次交通（バス乗り場）を明確に表示できるように配慮してほしい。

[委員]

長野駅ビル（MIDORI）整備で長野らしい施設にしたいということで他から依頼を受けているが、“長野市としてどうしたいのか”など考えていることがあれば教えてほしい。

[市]

観光情報センターの話がすれば、ワンストップ・サービスで色々な事が出来るようにしたいという思いはございます。また、関係者が多くいるため、なかなか発言できる機会は少ないのですが、本課が意見を言えるような場面では、皆さんから頂いた意見を参考にしながら話をさせて頂きたいとも考えております。

[委員]

今までは、どこの駅でも大きな観光案内版があったものだが、これからは、大きなオーロラビジョンを設置して、様々な情報を流すほうが効果的であり、その提案もしている。これは関係者が一体となれば実現できると考えている。設置できれば、長野市の観光情報センターからの情報もどんどん発信できると思うのだが。

[市]

実現できれば非常にありがたいお話しでございます。今後もうまくやっていきたいと思っております。

[委員]

最近、ある人と長野駅はハブ化が出来る場所だという話をした。外国人旅行者も数多く見受けられるようになったが、白馬方面などヘスキーで来ていたり、渋温泉へスノーモンキーを見に来ているのであろう。こういった旅行者などが長野駅を起点にしているため、ハブ化も可能である。そのため、長野市だけではなく周辺部も含めて色々と考えていったほうがよいのではないかと。

本日の話をまとめると、①インバウンドを含めた情報発信の方法、②長野らしさ、③街や住民が一体となることなどについて話し合った。また、観光入込客数の分けが出来るようになれば傾向と対策、重点を置くところなどがわかってくるので、戦略に役立つと考えられる。委員の皆様におかれても地元でもそういった話をしてほしいと思う。

[市]

本日は、いろいろとご審議をいただきましてありがとうございました。
以上を持ちまして、平成 24 年度第 2 回観光振興専門分科会を閉じさせていただきたいと思います。
お疲れ様でした。